２０１５年度　９月入学式　総長式辞

皆さん、ご入学、おめでとうございます。

本日ここにお集まりの新入生の皆さん、ご家族・ご友人、関係するすべての皆さま方に、早稲田大学を代表して心からのお祝いを申し上げます。

この度、めでたく２０１５年度９月入学式を迎えられた新入生の数は、学部生３５４名、大学院生５２３名の合計８７７名に上り、その８３％、７２６名が、海外からの留学生です。世界のあらゆる地域から多くの優秀な人材をお迎えできたことは、本学にとってこの上ない慶びであります。

今日の社会はグローバル社会でありますが、日本の大学は、グローバル化対応が遅れており、日本政府もグローバル化対応のための改革を迅速に進めることを求めています。

幸い、早稲田大学は、5000 人以上の外国人学生を迎え、30%以上の学生が卒業までに何らかの形で外国での学びを体験していることに示され

るように、日本で最もグローバル化対応の進んだ大学となっています。

早稲田大学は、創立以来、自由で独創的な学問を通じて世界の学問に裨益することを、そしてまた、広く地球社会全体の幸福を目指して世界に活動する人格の養成を目指してまいりました。実際にも、日本人として初のイェール大学教授になった朝河貫一、コロンビア大学に日本文化研究所を創設して、日本文化の海外発信の先駆者となった角田柳作、本国の命に反して「命のビザ」を書き続け、6000 名ものユダヤ人難民の命を救った日本のシンドラー･杉原千畝、ソニー創業者で本学名誉博士の井深大、ユニクロを世界ブランドに育て上げた柳井正、世界で高く評価されている小説家･村上春樹、さらには本学出身の７人の内閣総理大臣、数多くの研究者・ジャーナリスト・芸術家・アスリートたちが、本学での学びを活かして国際社会で大いに活躍してまいりました。また、早稲田大学は、創立 3 年目の 1884 年に最初の海外留学生を受け入れて以来、極めて多くの優れた外国人学生を迎え入れてまいりました。本学で学んだ外国人学生も、中国共産党の創立者である李大釗（Lǐ Dà zhāo)、陳独秀（Chen Tu-hsiu)、サムスン電子の李 健熙（イ・ゴンヒ）会長･本学名誉博士など極めて多彩です。

本学において、新入生の皆さまのような優れた外国人学生と日本人学生が、同じ教室で議論をし、サークル活動やボランティア活動、国際学

生寮での共同生活などを通じて、学生一人ひとりがグローバル社会を生き抜くために必要な資質と能力を伸ばすことができるものと確信しています。それだけでなく、文化的背景や価値観の異なる学生たちが、学問･研究･文化活動等を通じて相互理解を深めていく、このことの積み重ねが、各地で緊張を高めつつある今日の国際情勢を打開していく決め手になるものと強く期待しています。

グローバル化の進展は、経済活動に対する行政規制の緩和を前提としていますので、経済格差や環境破壊を生み出し、それが飢えと貧困、さらには地域紛争などをもたらしかねません。

ICT、人工知能、ロボットなどが大きく発展し、重化学工業中心の大量生産･大量消費社会から一人ひとりの知識･技能･情報処理能力等が決定的に重要な意義を有する「知識基盤社会（knowledge-based society)」への転換を遂げつつある今日においては、生涯を通じて学び続けることが必要になります。

内閣総理大臣の下に設置された教育再生実行会議においても、誰もが生涯学び続けることのできる社会を実現するために、国の教育投資を拡大すべきことなどを提言いたしました。

しかしながら、実際には、経済的理由によって教育を受けることができない人々が広範に存在し、そのことが経済格差の拡大を助長していま

す。

残念ながら、日本を含む多くの国々において、こうした事態の改善は、個人や民間企業の善意に多くが委ねられているのが現実であると言わざるを得ません。

本学在学中に地方の小売店の店主となり、その店を、今や中国・ASEAN諸国などで多店舗展開するグローバル企業にまで育て上げたイオン株式会社の創業者で本学名誉博士の岡田卓也氏は、現社長の岡田元也氏とともに本学卒業生です。岡田氏は、幼くしてご両親を亡くされたことや、本学在学中に戦争にかり出された体験などを踏まえて、アジア全体の平和と発展を願い、次代を担う若者が共に学び、相互理解を深める機会を提供するため、アジアの学生に対する奨学金を設け、現在までに約4000名もの学生に奨学金を給付しています。また、教育施設の不足する東南アジア各国に学校を建設する事業にも取り組み、これまで既に392の小学校を開設いたしました。また、環境改善のために、万里の長城に100万本の植樹を行ったのをはじめとして、中国、東南アジア、アフリカなどで植樹事業を行っており、その累計は1000万本を超えるに至っています。

早稲田大学は、私立大学であり、私立大学は建学の理念に基づいて教

育研究活動を行うことを特色としています。早稲田大学の建学の理念の１つに、「模範国民の造就」というものがあります。「模範国民」というと国家主義的な臭いを感じさせ、抵抗を覚える向きもあるかもしれませんが、この理念のとりまとめに当たった委員の一人であった高田早苗学長は、これを「ゼントルマン」あるいは「世界的市民」の意味であるとしています。

これに関連して、本学創設者･大隈重信は次のように述べています。

「大学に学ぶものは多数の国民の中の少数である。この少数の高等教育を受けたものが、国民の模範となる。国民の中堅はここに存する。国民の勢力はここに基づく。それが国家を堅実に発達させ、すべて文明的事業の急先鋒となるのである。そして模範国民となろうとするならば、知識のみではいかぬ。道徳的人格を備えなければならぬ。そして、自分自身、一家族、一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負がなければならぬ。」と。

先ほど紹介した岡田卓也氏など多くの本学出身者は、この理念を見事に体現した「模範国民」「世界的市民」であると思います。

入学者の皆さまには、こうした本学の理念・伝統を受け継ぎ、長い歴史の中で蓄積された本学の学問的・文化的資産と優れた教育・研究環境

を余すことなく活用し、各人の目指すところに向かって大きく飛躍されることを切に希望します。同時に、価値観や文化的背景の異なる様々な国の学生と共に学び、議論し、相互の理解を深めることで、世界の平和と人類の幸福の実現に向けた力強い歩みを生涯続けていくための基礎的な知力・学力・感性・体力・豊かな人的ネットワークなどを、ここ早稲田の地で存分に涵養されることを期待しています。

新入生の皆さんのこれからの大学生活・学問研究が実り多いものになることを心から祈念して、私からのお祝いと歓迎の挨拶とさせていただきます。

皆さま、ご入学、誠におめでとうございます。